

50 周年記念事業

1. はじめに

2022 年 10 月に当会が創立 50 周年を迎えるにあたり、当会及び我が国のロボット産業の歩みを回顧するとともに、更なるロボットの健全な普及とロボット産業の発展を目指し、次の半世紀に向けて広く社会での実現が期待されるロボットの在り様について展望・発信することを目的として、記念事業を展開した。

本記念事業実施に際しては、2021 年 7 月に「50 周年記念事業実行委員会」を組織し、具体的な内容の検討を開始した。50 年という歴史を踏まえ、過去の周年記念事業の内容を継承するものと、「50 周年」という大きな区切りを記念するものとを組み合わせ、「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」を全体テーマとし、2022 年から 2023 年にかけて表 1 に示す 6 事業を実施することとした。

なお、記念事業全体のテーマには、我が国が引き続き持続可能な社会を達成していくために、当会はロボット及びロボット技術によりその実現に貢献していくという思いを込めている。

表 1 50 周年記念事業の各事業及び実施時期

記念事業の種類	実施時期
50 周年記念ロゴの作成	2022 年 1 月
主催展示会等における記念パネルの展示	2022 年 3 月、6 月、10 月
記念式典（表彰事業）／祝賀会の実施	2022 年 10 月
記念シンポジウムの開催	2022 年 10 月
ロボット産業ビジョンの策定	2023 年 3 月
50 周年史の編纂	2023 年 3 月

各事業の実施体制は図 1 のとおりである。所掌する委員会・部会において各事業の実施方針（案）及び実施内容（案）を検討し、50 周年記念事業実行委員会、理事会の承認の下で、具体的な作業を進めた。

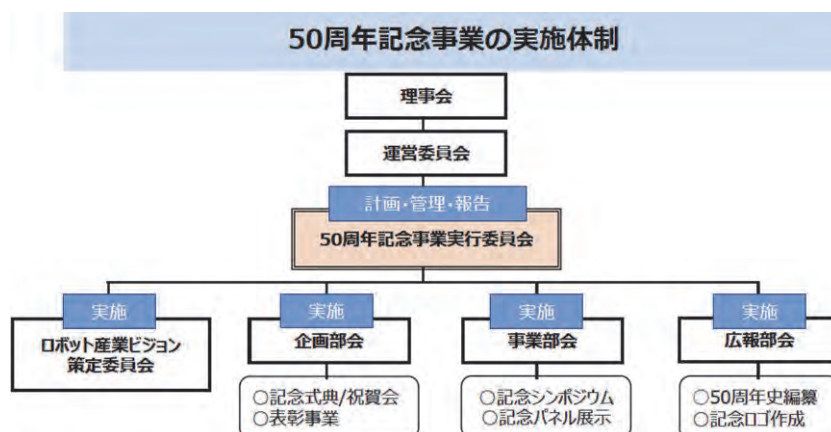


図 1 50 周年記念事業実施体制

2. 各事業について

2.1 50周年記念ロゴの作成

当会設立から半世紀を迎えたことを記念し、これを広く社会に向けて発信することを目的として、記念事業全体のテーマである「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」を想起させる記念ロゴを作成することとした。

記念ロゴについては広報部会が担当し、検討を行った。デザイン会社、印刷会社を対象にデザインコンペを実施し、5社より21件のロゴ案の応募があった。採択デザインを選定後、さらにデザイン調整を行い、図2のとおり記念ロゴを決定した。2022年1月開催の賀詞交歓会において発表し、以降、2023年3月にかけて使用することとした。なお、使用にあたっては、既存の当会ロゴとの併用を前提とした。



図2 50周年記念ロゴ

本記念ロゴは、当会が歩んできた50年とこれから歩む50年を表す「50」という数字の中に、ロボットの愛情あふれる表情と幸せそうな人の笑顔を描くことによって、「人とロボットの共生」をストレートに表現している。また、双方が正面を向くさまには、人とロボットが同じ方向に向かって歩んでいくという意味が込められている。

50周年記念事業に係る印刷物や講演資料、当会役職員の名刺・当会の封筒・当会機関誌への掲載、展示会の当会ブースでの掲出等に使用することにより、50周年を迎えたことを会員内外へ広くPRできたのではないかと考えている。

2.2 主催展示会等における記念パネルの展示

記念パネルの展示は、ロボット及びロボット産業、そして当会の歴史について理解を深めてもらうことを目的に実施することとなり、展示対象会場並びにパネル構成等の実施方針については事業部会が担当し検討を行った。

展示構成は、①工業会の歴史、②ロボット技術の変遷、③ロボット産業の変遷、④正会員一覧、⑤創立50周年記念ロゴ、⑥国際ロボット展の変遷の6種類とすることとした。

また、本パネルは、主催展示会である「2022国際ロボット展」(2022年3月開催)、「JISSO PROTEC 2022(第23回実装プロセステクノロジー展)」(2022年6月開催)及びJapan Robot Week 2022(2022年10月開催)においてそれぞれ展示を行うこととした。

記念パネルの展示は、各展示会の当会ブースで行ったほか、2022年10月に開催した記念シンポジウム会場のホール内でも実施した。



図3 2022国際ロボット展での展示



図4 JISSO PROTEC 2022での展示



図5 記念シンポジウムでの展示



図6 Japan Robot Week 2022での展示

2.3 記念式典（表彰事業）／祝賀会の実施

ロボット業界及び当会事業を支援いただいた関係各位に感謝の意を表すとともに、今後も引き続きご支援をお願いし、関係性をより強固なものとするを目的として、記念式典及び祝賀会を実施することとした。企画部会でその実施内容等について検討を行い、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の一環として、1,000名収容の会場に500名程度に参加者数を絞って開催することとした。また、10月13日（木）の50周年記念シンポジウム初日の終了後に、記念式典及び祝賀会を東京ビッグサイト会議棟1階の「レセプションホール」において開催した。

記念式典及び祝賀会の次第は以下のとおりである。

- <日時> 2022年10月13日（木） 16:30～18:30
<会場> 東京ビッグサイト 会議棟1階「レセプションホールA・B」
<次第> ○記念式典—表彰式（16:30～17:00）
1. 式 辞 会長 山口 賢治
 2. 来賓祝辞 経済産業省 製造産業局長 山下 隆一 殿
 3. 表彰状授与
(1) 経済産業大臣表彰状授与
(2) 経済産業省製造産業局長表彰状授与
 4. 謝 辞 ファナック株式会社 代表取締役会長 稲葉 善治 殿
 5. 会長特別表彰並びに感謝状贈呈 会長 山口 賢治
(1) 会長特別表彰状贈呈
(2) 会長感謝状贈呈
- 祝賀会（17:05～18:30）
1. 会長挨拶 会長 山口 賢治
 2. 来賓挨拶 経済産業省 製造産業局 産業機械課長兼ロボット政策室長 安田 篤 殿
 3. 乾 杯 副会長 橋本 康彦



図7 記念式典での山口会長式辞

2.3.1 記念式典

過去10年にわたり、当会の各種事業を通じてロボット業界の発展に貢献された方々に対し表彰を執り行うこととし、その授与が行われた。

なお、表彰者の検討にあたっては、50周年の「表彰規定」を制定し、これを踏まえて今回の表彰者を決定した。表2に、表彰の種類及び各表彰者を示す。

表 2 表彰の種類及び表彰者一覧

表彰の種類	表彰者
経済産業大臣表彰 当会において役員を 15 年以上務め、特に功績が顕著な方	ファナック株式会社 稲葉 善治 殿
経済産業省製造産業局長表彰 当会会長を歴任された方々、当会役員を 10 年以上務め、当会の発展にご尽力をいただいた方々、優れた学識経験をもって当会の各委員会委員長ほか永年にわたりご指導をいただいた方	株式会社安川電機 小笠原 浩 殿 株式会社 FUJI 曾我 信之 殿 株式会社安川電機 津田 純嗣 殿 川崎重工業株式会社 橋本 康彦 殿 IDEC 株式会社 藤田 俊弘 殿 独立行政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 山田 陽滋 殿
会長特別表彰 ロボット業界の功労者で各委員会委員長が推薦し、理事会が承認した方	ファナック株式会社 榊原 伸介 殿
会長感謝状 歴代副会長の方々、当会の委員会活動に尽力し、その功績が特に顕著な方々	<歴代副会長> 元パナソニックファクトリーソリューションズ株式会社 青田 広幸 殿 パナソニック コネクト株式会社 秋山 昭博 殿 NACHI ROBOTIC SYSTEMS, INC. 赤川 正寿 殿 元株式会社日立ハイテクインスツルメンツ 河崎 勝浩 殿 株式会社不二越 国崎 晃 殿 三明機工株式会社 久保田 和雄 殿 元株式会社不二越 佐々木 誠 殿 株式会社スター精機 塩谷 國明 殿 元ヤマハ発動機株式会社 藤田 宏昭 殿 <工業会活動功労者> 上田 裕司 殿、末廣 尚士 殿、建山 和由 殿、谷 和男 殿、鎮西 清行 殿、水川 真 殿、村上 弘記 殿、守田 裕親 殿、山田 丈富 殿

「経済産業大臣表彰」及び「経済産業省製造産業局長表彰」は、経済産業省製造産業局の山下隆一局長より表彰状が授与され、また、「会長特別表彰」、「会長感謝状」は当会山口賢治会長より特別表彰及び感謝状がそれぞれ贈られた。



図 8 経済産業大臣表彰授与



図 9 経済産業大臣表彰及び製造産業局長表彰
表彰者記念撮影



図 10 稲葉善治・ファナック会長による謝辞



図 11 会長特別表彰授与



図 12 会長特別表彰及び会長感謝状 表彰者記念撮影

2.3.2 祝賀会

記念式典終了後に祝賀会を引続き開催し、山口賢治会長の開会挨拶の後、経済産業省製造産業局の安田篤産業機械課長兼ロボット政策室長より来賓挨拶、続いて 50 周年記念事業実行委員会委員長の橋本康彦副会長の乾杯の発声により進行した。コロナ禍にもかかわらず、会員各社のほか、関係機関、関係省庁、学会関係者及びプレス等より 200 名余りのご臨席の下、終始和やかな歓談の中で盛会裏に終了した。

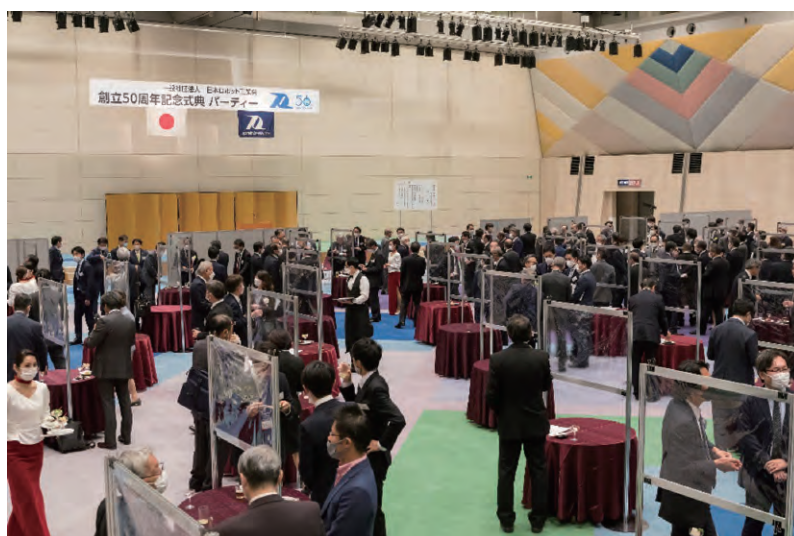


図 13 祝賀会場での歓談風景

2.4 記念シンポジウムの開催

今後の半世紀を見据え、記念事業全体のテーマである「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」の実現に向け、ロボットのあるべき姿を多面的に捉え、ロボット分野等の斯界の有識者による講演等を通じて広く発信することを目的として、「JARA 創立 50 周年記念シンポジウム」を開催することとした。

実施時期、会場及びシンポジウム内容（構成、講師）等については、事業部会で検討を行い、コロナ禍での開催となることから感染対策への充分な対応を取るべく、会場の選択及び開催方式等に配慮した。

記念シンポジウムは 2022 年 10 月 13 日（木）、14 日（金）の 2 日にわたり東京ビッグサイト会議棟 7 階の国際会議場において開催した。本記念シンポジウムは、基調講演及び特別講演各 1 件と、各方面のエキスパートである講師各位による 5 つのセッション計 13 講演及びパネルディスカッションで構成された。

リアル会場とオンライン会場のハイブリッド方式で開催し、会期中の来場者及びオンライン視聴者総数は 1,424 名と、多くの方に聴講いただいた。また、講演については、一部を除き期間限定でアーカイブ配信も行った。

なお、本記念シンポジウムの概要については、p.128「第 5 章 展望」に掲載しているのでそちらをご覧ください。

2.5 ロボット産業ビジョンの策定



図 14 記念シンポジウムでの山口会長による開会挨拶



図 15 記念シンポジウム 基調講演



図 16 記念シンポジウム 特別講演



図 17 パネルディスカッション

当会が創立 50 周年を迎えるのを機に、次の 50 年に向けた足掛かりとして『ロボット産業ビジョン』を策定することとした。本産業ビジョンでは、記念事業の「ロボティクスがもたらす持続可能な社会」を共通テーマに、2050 年での我が国の「ありたき姿」とその実現にあたっての「ロボット産業の目指すべき中長期での姿」を描くにあたり、当会会員企業の若手技術者に加え、学識経験者で構成された「ロボット産業ビジョン策定委員会（委員長：浅間 一東京大学教授）」を設置し、検討することとなった。

なお、本産業ビジョンについては、当業界のみならず各界各層に対し広く発信することとしており、その要約版については、p.128「第5章 展望」に掲載しているのでそちらをご覧ください。

2.6 50 周年史の編纂

当会及びロボット産業のあゆみ、変遷を記録として残すことを目的として、50 周年史『50 年のあゆみ』を発行することとした。

年史の編纂は広報部会が担当し、他団体等の周年誌も参考にしながら、当会の 50 周年の記念誌としてふさわしいものとなるよう内容の検討に時間をかけた。なお、発行については、一連の記念事業に関する記録を含めるため、2023 年 3 月とすることとした。

3. 関連特別企画

前述の記念事業のほかに、50 周年の関連特別企画として、「JISSO PROTEC 2022（第 23 回実装プロセステクノロジー展）」の会期中（2022 年 6 月 15 日～17 日）に「JARA 創立 50 周年記念セミナー」（併催事業）を開催した。3 つのテーマで計 8 講演が行われた。

また、同展においては、当会創立 50 周年記念として SEMI 協賛の下、当会ブースにてスマート工場向け通信規格 ELS（Equipment Link Standard）による SMT 実機ラインの実演を行った。

4. おわりに

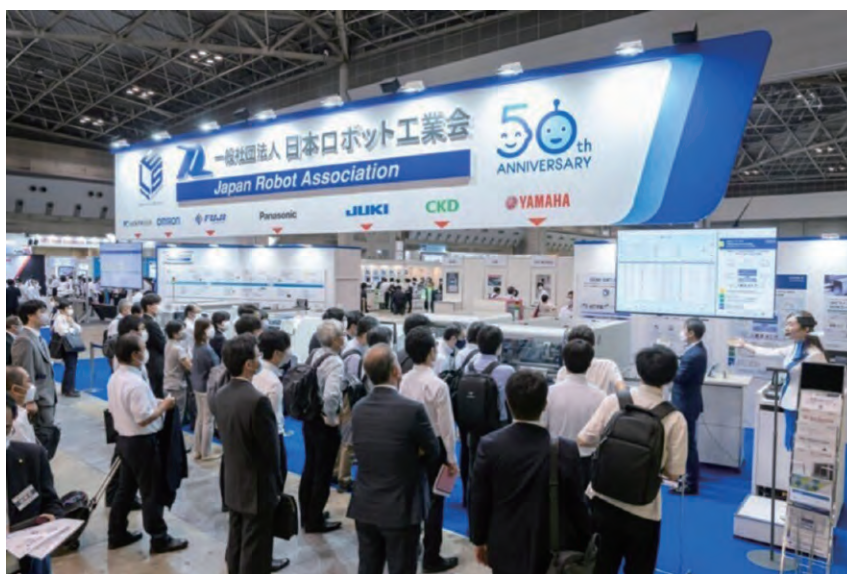


図 18 JISSO PROTEC 2022 当会ブースでの ELS 展示

当会が 2022 年 10 月に設立 50 周年を迎えるにあたり、2021 年度より 50 周年記念事業実行委員会において実施事業の企画を行うとともに、具体的な事業の内容については関係する部会及び委員会で検討を行ってきた。

これまでの周年事業に加え、既に取り上げたように「記念ロゴの作成」、「記念パネルの展示」及び「記念シンポジウムの開催」といった新たな事業も加えることで、50 周年にふさわしい多彩なビッグイベントとなった。惜しむらくは、コロナ禍の下での事業実施となったことで、シンポジウムや記念式典等へのリアル出席が制限されるとともに、感染症対策のための費用がかさむこととなったが、会員はじめ本事業に係られた委員会及び部会の各委員の協力の下で、各記念事業を成功裏に終えることができた。